

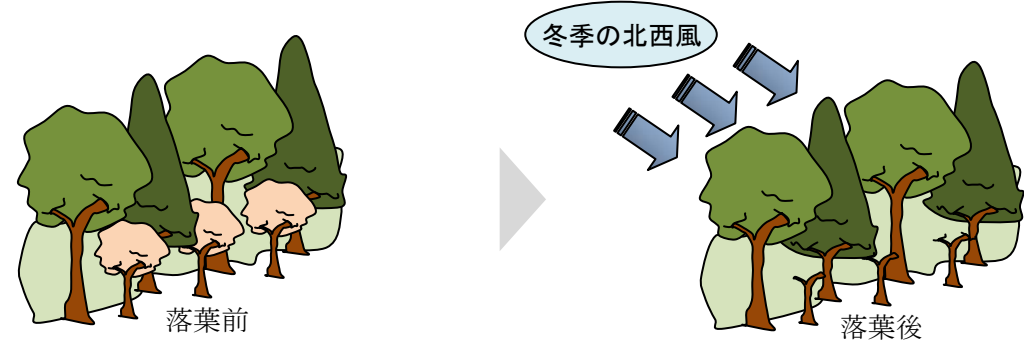
# 再生居久根モデルプランの考え方

## ◆居久根再生基本方針

**基本方針**

- ①冬季の北西風から家屋や庭を守る居久根の基本機能を持たせる
- ②塩害に強い樹種で居久根を構成する
- ③屋敷林所有者に維持管理の負荷が少ない居久根を構成する
- ④地域住民の生活と共に記憶の一部となる居久根を育成する
- ⑤居久根の減災林機能に着目し、防災効果が十分に発揮できる構成にする

### 1) 冬季の北西風から家屋や庭を守る居久根の基本機能を持たせる



冬季の仙台平野に吹きつける北西の風から家屋や庭を守るために、常緑高木と常緑低木を主要な構成樹として組み合わせ植栽する。

### 2) 塩害に強い樹種で居久根を構成する

従来のスギを主体とした樹種構成を見直し、今回の津波で塩害の被害が少なかった樹種や文献調査から塩害に耐性を持つ樹種を選定し、新しい居久根の樹種構成に積極的に取り入れる。

### 3) 屋敷林所有者を考慮し維持管理の負荷が少ない居久根を構成する

従来植栽されていたスギやクロマツなど樹高の高い木ではなく、大きいものはおよそ 10m~15m のものを導入する。

### 4) 地域住民の生活と共に記憶の一部となる居久根を育成する

住宅の性能向上や生活様式の変化などに伴い、所有者が居久根に求める姿や機能も変化していると考えられる。そのため、従来の姿から変化しつつもお生活との関わりを保ち、やがて再生される地域の風景として人々の記憶に残る居久根をつくる。

### 5) 居久根の減災林機能に着目し、防災効果が十分に発揮できる構成にする

本来は北西から吹く季節風から家屋を守ることを目的とした居久根であったが、津波被災後の調査\*により東側に居久根があった場合に津波による建物被害が軽減したと報告されており、可能であれば東側にも積極的に居久根を導入する。

\*仙台平野の海岸林・居久根（いぐね）の災害調整サービス機能（小金澤・海川 2012）

## ◆居久根再生の今日的な課題と対策

**従来の居久根**

- スギやクロマツなど樹高の高い常緑樹を主体とした樹種構成
- 樹木の枝の無い部分をタケ類で補い、風を防ぐ
- 果樹を数本植える
- その他、木材や燃料を得るための樹種を導入

**再生する居久根**

- 樹高が 10m~15m の常緑樹を主体とした樹種構成
- 樹木の枝の無い部分を常緑低木で補い、風を防ぐ
- 果樹や美しい花が咲く樹種を植える
- 塩害に対し、耐性を持つ樹種を積極的に導入
- 手入れが容易な樹種を選抜し、導入
- 東側に減災林を設ける。

従来の居久根の主要な樹種スギ	再生する居久根のスギの代わりとなる樹種
<p><b>用途</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防風効果</li> <li>・木材として利用</li> </ul> <p><b>問題点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・塩害に弱い</li> <li>・樹高が高く維持管理が困難</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防風効果</li> <li>・塩害耐性</li> <li>・減災効果</li> <li>・樹高が高すぎない</li> <li>・常緑樹</li> </ul>

居久根の中心となる部分の樹木を耐風・防塩強化ゾーンとし、そこには、高木(10m~15m)、常緑樹、耐塩性の3つの条件を兼ね備えた樹木を配植する。また、減災林として屋敷の東側にも耐塩性の高い常緑樹を配植する。

